

事例名称	鋸南町都市交流施設 道の駅「保田小学校」	政策分野	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地方における安定した雇用の創出</li> <li>2. 地方への新しい人の流れをつくる</li> <li>3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望実現</li> <li>4. 時代に合った地域、安心な暮らし、地域と地域の連携</li> </ol>
取組地域	<small>きよなんまち</small> <b>千葉県鋸南町</b>	活用した政府の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地方創生推進交付金(内閣府)</li> <li>➢ 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業(農林水産省)</li> <li>➢ 都市農村共生対流総合対策交付金事業(農林水産省)</li> <li>➢ 次世代自動車充電インフラ整備促進事業(経済産業省)</li> <li>➢ 重点道の駅候補(国土交通省)</li> </ul>
全体概要	<p>○学校としての役目を終えた小学校を新たなコミュニティの核、地方創生の拠点として再生、農林水産物の販売や6次産業化を通じた農林漁家の経営安定を目指す。</p> <p>○当時の小学校名をそのままに、南房総地域のランドマーク、地域の活性化、町民が活躍できるステージとして、都市と農山漁村の交流拠点とした(平成27年)。</p> <p>○地域センター型道の駅として、廃校を地域福祉・防災・産業振興・地方移住定住促進拠点として整備する。</p>	イメーリアップ資料 (写真・図表等)	<施設外観>
特徴的取組・成果	<p>○地域コミュニティの核であった廃校を、町民の経済活動ステージ「都市交流施設・道の駅保田小学校」として再生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林水産物の販売や6次産業化を通じた農林漁家の経営安定、自然・文化・歴史など町の観光や食の情報などを発信し、都市と農山漁村の交流活性化の拠点として活用。平成27年12月開業。</li> <li>・ 移住受入や体験プログラムに関する情報発信、ワンストップ窓口など、町全体のコンシェルジュ機能を担っていく。</li> <li>・ 体育館を使った直売所、教室を使った宿泊施設など、小学校の雰囲気を残しつつリノベーションした道の駅は、全国的にもユニークな存在。</li> <li>・ 約200事業者の参入・50人の雇用・12万人の交流客を創出(平成27年12月開業～平成28年3月末実績)。</li> </ul>		<教室の面影を残した宿泊施設>
取組の工夫等 推進体制面	<p>○地域資源、廃校活用のモデルケース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 廃校活用のモデルケースと位置付け、既存ストック物のコンバージョンに対し、多様な事業を同時進行させ、専門的な知識、技能を外部から積極的に登用することにより、新たな人材が集まる好循環が生まれ、産官学金言による連携が図れた。</li> </ul> <p>○政策間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 道の駅整備でありがちな地域農産物直売所による地域経済の活性化だけでなく、当該廃校利用を核とした官民連携での老朽化・低稼働公共施設の再生プランの策定や、アクティブシニア受入れのための雇用創出・産官学連携での生涯学習の体制整備による「生涯活躍のまち」推進など施策間連携に取り組んでいる。</li> </ul> <p>○「住む、働く、訪れる」ワンストップ組織の立上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 今後、「住む、働く、訪れる」ワンストップ組織を立上げ、人材紹介・地域DMO・施設改修事業を展開し雇用・産業振興・移住定住を支援する。移住希望者や起業家、求職者、観光客等の相談窓口を一箇所に集約し、KPIを継続的にフォローすることにより、雇用・移住機会損失を低減する仕組みを構築していく。</li> </ul>	 	<農産物直売所>
その他	○国土交通省による「重点道の駅候補」に選定(平成27年1月)		(資料)鋸南町
参考となるポイント・示唆	○小学校の雰囲気を残しつつ廃校をリノベーションし、新たな地方拠点に再生。地元住民から愛され、メディアからも注目を集める施設になった。「小学校」と名の付く全国初の道の駅)		(資料)鋸南町